

# 平成25年度 糸魚川市生徒指導部 活動報告

部長 後藤孝一

## 1 研究主題

市教育研究会では、糸魚川市が示した0歳から18歳までの「子ども一貫教育方針」を踏まえ、「いじめの撲滅と不登校の解消に向けた生徒指導の充実と心の教育の推進」をテーマに、市内における各学校の生徒指導上の課題との関連を図った取組を進めている。

## 2 研究の概要

学校で教員が指導や援助の役割を果たそうとするときに、大切な意味を成す様々な事柄の中で、その子どもとどのような関係にあるかが挙げられる。しかし、教職員の若返りが進む中、児童生徒や父母との関係において教育相談やかかわり方等については、教科指導と比べ経験や研修も浅く、戸惑い悩むことも多い。昨今は、特にこういう能力を必要とする多くの指導状況が見られる。

児童生徒及び保護者とのコミュニケーションを深め、確かな信頼関係を築き、その悩みや葛藤に適切に応じることのできる知識・技能が求められ、学校カウンセリングの必要性が見られる。

生徒指導部では、こうした状況を踏まえ、教職員が十分なカウンセリング技能を身に付け、児童生徒の心情を十分に汲み取った指導を進められるよう部員及び各校の生徒指導担当者を対象とした研修会を開催するとともに、中学校区を中心とした研究、取組を進めている。

## 3 研究の実際

### (1) 生徒指導研修会の開催

ア テーマ「～カウンセリングから学ぶ～」

会場 糸魚川中学校 11月29日(金)

イ 講師 スクールカウンセラー 山岸 宏 様

演題 「問題のある児童生徒への対応の仕方」

ウ 概要



生徒指導部員及び学級担任20名の参加により行われた。研修では、教育相談の進め方についてのポイントを研修すると同時に、教育相談の基本的技法について、ポジティブ・レフレーミング等の実習研修が行われた。

### (2) 中学校区の取組

市内には4つの中学校区がある。平成21年度より能生中学校区をモデル地区に学校支援地域本部事業がスタートし、本年度すべての中学校区において実施されている。この事業により各中学校区に地域コーディネーターが配置され、学校の要望や方針に応じ学校支援ボランティアとの連絡調整を図りながら、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる環境の強化を図っている。

## 4 成果と課題

昨今、児童生徒においても多様な価値観や個性化が進んでいる中、教員には、児童生徒一人ひとりの願いや希望あるいは個性的ないろいろな特徴を生かし、自己実現支援のため、様々なアプローチが必要となってくる。教職員の若返りが進む折、実践的な研修を行うことができた。

また、すべての児童生徒に対して、一人ひとりの心に寄り添った理解を進めるため、戸惑い・悩み・葛藤・自己決定などの過程にかかわる深いかかわりが求められており、高いカウンセリング技能等、教育相談技術の向上が望まれる。